

2023年3月20日

各位

会社名 株式会社シャノン
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎
(コード番号:3976 東証グロース)
問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学
(電話番号:03-6743-1551)

2023年10月期 第1四半期決算に関連した質問への回答

Q1	セグメント利益では、第1四半期のサブスクリプション事業は赤字でした。通期では黒字見通しでしょうか
A1	毎年サブスクリプション売上を成長させるために投資が先行する形となりますが、第2四半期以降で徐々に収支はバランスし、通期では黒字見通しでございます。

Q2	サブスクリプション事業のアカウントの保有残高が前第4四半期より減っていますがこの要因は何ですか？
A2	第1四半期の解約件数が、例年に比べて多かったことが要因です。 一方で弊社では3月更新のお客様の割合が圧倒的に多くなっていますが、現時点ではこちらの見通しは明るく、通期での解約は例年よりもむしろ少ない見込みとなっております。

Q3	サブスクリプション事業の新規契約数が減少していますが、営業活動がうまくいっていないのか、既存顧客のアップグレード等による売上増を優先しているのか？
A3	新規や既存への営業アプローチについては従来から変わることはございません。 サブスクリプション事業で提供している「SHANON MARKETING PLATFORM」(MA)は、お客様毎の契約単価に大きな幅がございます(ボリュームゾーンは10万~20万/月)。その要因としては、小さくスタートしたあと利活用に応じて単価が上がる仕組みであること、また特に大企業においては初期のご契約単価が月100万を超えるケースもあるためでございます。 そのため、当社では新規件数はもちろん、新規契約単価、既存顧客のアップセル単価も含め、サブスクリプション売上そのものの推移が非常に重要であると考えており、1Qでは前年同期比12.4%としっかりと成長できていると考えております。

Q4	イベントクラウド事業は前年同期比で売上が下がっているように見えますが前期のように赤字要因とならないのでしょうか？
A4	イベントクラウド事業は、前年同期は大型案件の納品があったこともあり、前年同期比では減少となっております。イベント事業の市場環境としては、昨年後半より徐々にリアルイベント回帰の動きがあり、商談数が戻りつつある手ごたえを感じております。このような状況において、当第1四半期としては予算に対して順調な推移をしております。また、新型コロナウイルス感染症について、マスクの着用緩和、5類への変更も予定されていることから、第2四半期以降もリアルイベントへの回帰は一層進みイベントクラウド事業における市場環境はさらに改善していくものと考えております。

Q5	メタバース事業の大型展示会に対応するための翻訳機能やマルチプレイ、スマホ対応といった機能はまだ開発段階という認識であっていただけますでしょうか？ 後期の段階でこれが実装されない場合2億円の売り上げが達成できないように思いますがこの予想にはこの機能をリリースすることによって獲得できる大型展示会の分も含まれているのでしょうか？
A5	ご認識の通り、現在開発中であり、またリリースができるタイミングが来ましたら、ご案内等を予定しております。また、2023年10月期のメタバース事業の売上計画は、大型展示会の受注を含めて計画値を立てております。 先に発表しました2023年10月期第1四半期決算においても少し触れておりますが、直近では当初ジクウとしては想定していなかった活用シーンも増えてきており、特に採用系のイベントでのご利用や商談が増えている状態です。 新たに認識したビジネス機会を生かしながら、引き続き大型展示会の獲得活動も進めている状態でございます。

Q6	第1四半期の営業損失額が開示資料上過去最大に見えています。前年同期も赤字でしたが、これは一時的（季節性）のものでしょうか。
A6	例年の傾向として展示会出展等のマーケティングコストや採用コストが前半に偏っていることが要因としてありますが、それに加えて、中期的な成長を実現するための積極採用による人件費の増加もあり過去最大の赤字額となっております。第2四半期以降では1Qに偏重した分のコストの減少や売上の積み上げにより（サブスクリプション売上の積み上げを含む）黒字化していく予定でございます。

各種 IR ライブラリー資料はこちら

<https://www.shanon.co.jp/ir/library/index.html>

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報（forward-looking-statements）」を含みます。将来の見

通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。